

JILPT 資料シリーズ

No.215 2019年5月

# 生涯現役を見据えた パラレルキャリアと社会貢献活動 —企業人の座談会（ヒアリング調査）から—



生涯現役を見据えた  
パラレルキャリアと社会貢献活動  
—企業人の座談会（ヒアリング調査）から—



## ま え が き

高齢社会が本格到来し、65歳以降も社会において活躍し続けたいと願う高齢者が増えている。本研究は「人生100年時代」を見据え、雇用や賃労働で働くことを超えて、社会貢献活動も「就労」の視野に入れながら、人生の最終期においても生きがいを感じることが出来る生涯キャリアをいかに作るかを考えていくものである。

本報告書は、研究期間初年度に企業に勤める従業員に対し、自身のキャリアとボランティアや社会貢献活動の関わりについて座談会形式で調査した内容を収録している。

本調査は、大手商社と大手金融機関の協力を得て、65人の社員から聞き取りを行っている。調査は企業人のボランティア活動に主眼をおいているが、根底にあるテーマは生涯キャリアであり、いかに自分らしいキャリアを作っていけるのかということにある。折しも働き方改革が実行され、長時間労働から脱却しつつある職場は、少し風通しが良くなり、こういったことも考えられるような雰囲気になってきているようである。

まずは調査にご協力いただいた2つの企業と、調査をセッティングして下さった担当者、および、忙しい業務の合間に調査に参加して下さった社員の方には深く感謝申し上げたい。

本調査での知見は、2018年度に実施されたアンケートの調査設計に活かされている。

本報告書が今後の社会生活やキャリアを考える上で、企業の人事、CSR担当者、政策担当者をはじめ、NPOや社会貢献活動に携わる人々の参考になれば幸いである。

2019年5月

独立行政法人 労働政策研究・研修機構  
理事長 樋口 美雄

## 執筆担当者（執筆順）

氏名	所属	担当
おの あきこ 小野 晶子	労働政策研究・研修機構 主任研究員	第1章、第2章1～4、 第4章
こまた せいじ 古俣 誠司	労働政策研究・研修機構 アシスタントフェロー	第2章5、資料編
たなか やよい 田中 弥生	芝浦工業大学 特任教授	第3章、第5章

## 目 次

<b>第 1 章 問題の所在と研究の目的</b> .....	1
はじめに .....	1
1. 高齢期の生活と社会貢献活動 .....	2
2. 企業人と「パラレルキャリア」 .....	6
3. 課題と研究展望 .....	8
<b>第 2 章 調査概要</b> .....	9
1. 調査目的 .....	9
2. 調査対象企業と参加者について .....	9
3. 調査概要 .....	9
4. 質問の内容 .....	10
5. 企業・年齢階層グループ別にみたヒアリング調査要旨 .....	10
(1) A 社 35 歳未満グループ .....	10
(2) A 社 35-44 歳グループ .....	11
(3) A 社 45-54 歳以下グループ .....	11
(4) A 社 55 歳以上（男性）グループ .....	12
(5) A 社 55 歳以上（女性）グループ .....	13
(6) B 社 35 歳未満グループ .....	14
(7) B 社 35-44 歳グループ .....	14
(8) B 社 45-54 歳グループ .....	15
(9) B 社 55 歳以上（男性）グループ .....	15
(10) B 社 55 歳以上（女性）グループ .....	16
<b>第 3 章 定年退職後への不安の所在</b> .....	17
1. 多くの人々が抱える退職後の不安 .....	17
2. 古くて新しい「退職後の不安」 .....	17
(1) 40 年前に提示された退職の危機 .....	17
(2) 「人生 100 年時代」の不安 .....	18
(3) 古くて新しい退職後ライフへの危機感 .....	19
3. ヒアリングで出された「退職後に関する意見」 .....	19
(1) 退職後の不安 .....	19
(2) 不安の理由 .....	20
(3) 退職後を意識しはじめる年齢 .....	22

(4) 不安を感じていない理由.....	22
(5) 退職後のおおまかなプランについて.....	22
4. 小括 ～ヒアリングから見えた「退職後の不安」と「漠然としたプラン」～.....	24
<b>第4章 調査からの知見と考察</b> .....	<b>25</b>
1. ボランティアや社会貢献活動の経験.....	25
(1) ボランティアや社会貢献活動の経験割合.....	25
(2) 経験したボランティアや社会貢献活動の種類.....	25
2. ボランティアや社会貢献活動に参加したきっかけ.....	32
(1) 「環境」.....	32
(2) 「誘い」.....	34
(3) 「経験、共感、恩返し」.....	35
(4) ボランティア参加のきっかけを作ることについての小考.....	36
3. ボランティアや社会貢献活動から得られたもの.....	37
(1) 充足、やりがい.....	37
(2) 仲間、つながりの拡大.....	39
(3) 経験値の拡大.....	39
(4) 仕事やキャリアに役立つ.....	41
(5) その他（子供に活動をみせることができる）.....	42
4. ボランティアや社会貢献活動を阻害する理由とハードル.....	43
(1) 忙しい、時間がない.....	43
(2) 負担が大きい.....	44
(3) 対価がない.....	45
(4) 地域にない.....	45
(5) 情報がない.....	45
(6) 印象が悪い.....	46
(7) ボランティアが身近ではない.....	46
5. 希望するボランティアや社会貢献活動の種類.....	47
6. パラレルキャリアと定年退職後の生活のイメージ.....	49
(1) 55歳以上のグループ.....	50
(2) 55歳未満のグループ.....	50
7. 会社での支援策.....	53
8. まとめ：ヒアリング調査からの知見.....	59

<b>第5章 望まれる方向性と今後の調査課題</b> .....	62
1. 全体研究の目的と本ヒアリング調査の位置づけ .....	62
2. ヒアリング調査で明らかになった点 .....	62
(1) 退職後不安 .....	62
(2) 社会貢献活動/ボランティア .....	62
3. アンケート結果に基づく仮説とアンケート調査への示唆 .....	63
4. その他：アンケート調査以降の展開と留意点 .....	65
<b>資料編</b> .....	67
A 社座談会 35歳未満グループ .....	69
A 社座談会 35-44歳グループ .....	81
A 社座談会 45-54歳グループ .....	90
A 社座談会 55歳以上（男性）グループ .....	98
A 社座談会 55歳以上（女性）グループ .....	106
B 社座談会 35歳未満グループ（抜粋） .....	116
B 社座談会 35-44歳グループ（抜粋） .....	118
B 社座談会 45-54歳グループ（抜粋） .....	120
B 社座談会 55歳以上グループ 男性（抜粋） .....	122
B 社座談会 55歳以上グループ 女性（抜粋） .....	124

